

はじめに

宮城学院女子大学キリスト教文化研究所共同研究「多民族社会における宗教と文化」は、2016年度の活動として、下記の通り4回の公開研究会を開催した。それぞれの研究会では、学外から気鋭の研究者をお招きするとともに、発表テーマに興味を持つ学部生も参加するなど、多彩なメンバーが集まって議論が展開された。新たなテーマに取り組む発表のみならず、以前に本共同研究において発表した内容をさらに深化させた報告もあったのは、本共同研究の歴史と積み重ねを実感させる一幕であった。

6月21日（学内共同研究「震災後の『女性・子どもと地域』研究」との共催）

「被災地の心の復興と震災前の地域共同体」

李仁子 氏（東北大学准教授）

2016年7月23日（日本文化人類学会東北人類学談話会との共催）

「変化するネワールの人生儀礼をめぐる——肉ある儀礼から『出家』式へ」

工藤さくら 氏（東北大学大学院文学研究科博士課程）

「女性が生きる意味としての『仕事』——北インド農村女性のライフヒストリーから」

菅野美佐子 氏（人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員）

「ふたつの発表へのコメント」

南出和余 氏（桃山学院大学准教授）

2017年2月10日

「植民地インドにおける日本製タイルの受容とその表象性」

豊山亜希 氏（近畿大学専任講師/宮城学院女子大学キリスト教文化研究所客員研究員）

2017年2月13日 共通テーマ「タイにおけるダイビング産業の現状」

「タイにおけるダイビング産業の業界構造および地域性の概観」

小河久志 氏（常葉大学准教授）

「タイにおけるダイビング産業の近年の変化——勃興するタイ人市場」

市野澤潤平（宮城学院女子大学准教授）

これらのうち7月23日の公開研究会について、そこでの発表内容を発表者に改めて論文として書き下ろしていただき、今号に掲載する運びとなった。さらに、2015年度に開催された公開研究会での発表内容を発展させた論考1本を加えて、今号には計3本の論考が掲載される。執筆者には多くのご苦勞をかけることとなったが、今年度も無事に『多民族における宗教と文化』を発行できることを、感謝したい。

共同研究代表 市野澤潤平